

第1回 藤沢駅前街区エリアデザイン会議

日時：2022年（令和4年）7月15日（金）
午後2時から午後4時まで
場所：藤沢市役所分庁舎6階 6-3会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 議長・副議長の選出
- 3 藤沢駅周辺地区の取組
- 4 デザインコンセプト・自由通路デザインの検討
- 5 閉 会

（配布資料）

- 資料1 藤沢駅前街区エリアデザイン会議設置要綱
- 資料2 藤沢駅周辺地区の取組
- 資料3 藤沢駅前街区エリアデザイン検討の基本的考え方
- 資料4 スケジュール（案）
- 資料5 参考資料集

藤沢駅前街区エリアデザイン会議設置要綱

(目的及び設置)

第1条 藤沢駅前街区において、藤沢駅南北自由通路拡幅整備、藤沢駅南口駅前広場再整備等を実施するに当たり、駅北口を含めたエリア全体を捉えたデザインについて検討することを目的として「藤沢駅前街区エリアデザイン会議」（以下「デザイン会議」という。）を設置する。

(検討範囲)

第2条 デザイン会議で検討する藤沢駅前街区の区域は、別紙「検討範囲図」のとおりとする。

(所掌事務)

第3条 デザイン会議は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 藤沢駅前街区のデザインコンセプトに関する事項
- (2) 藤沢駅南北自由通路のデザインに関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、藤沢駅前街区のデザインについて専門的な助言、指導等に関する事項

(組織)

第4条 デザイン会議は、委員20人以内で組織する。

(委員)

第5条 委員は、次に掲げる者のうちから選任し、又は任命する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 藤沢駅周辺のエリアマネジメント団体の関係者
- (3) 鉄道事業者に属する者
- (4) 市の職員

2 委員のうち、この市の職員である委員は、都市整備部長、街なみ景観課長及び藤沢駅周辺地区整備担当参事をもって充てる。

3 委員の任期は、令和6年3月31日までとする。ただし、協議の状況により、延長することができる。

(議長等)

第6条 議長は、学識経験を有する者につき選任された委員のうちから、委員の互

選により定める。副議長は、議長の指名により定める。

2 議長は、会務を総理する。

3 副議長は、議長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 デザイン会議は、議長が招集する。

2 デザイン会議は、議長及び半数以上の委員の出席がなければ、会議を開くことができない。

3 デザイン会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理出席)

第8条 委員がやむを得ず出席できない場合であって、議長が必要と認めたときは、委員は代理出席者をデザイン会議に出席させることができる。

(意見等の聴取)

第9条 議長は、デザイン会議の運営上必要があると認めるときは、この市の職員その他の関係人を会議に出席させてその意見又は説明を聴くことができる。

(秘密保持)

第10条 委員は、その職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。

(庶務)

第11条 デザイン会議の庶務は、都市整備部藤沢駅周辺地区整備担当において総括し、及び処理する。

(委任)

第12条 前各条に定めるもののほか、デザイン会議の議事の手続その他のデザイン会議の運営に関し必要な事項は、議長がデザイン会議に諮って定める。

附 則

1 この要綱は、令和4年6月3日から施行する。

2 この要綱の施行の日以後最初に開かれる会議は、第7条第1項の規定にかかわらず、市長がデザイン会議を招集する。

第1回 藤沢駅前街区エリアデザイン会議

藤沢駅周辺地区の取組



2022年（令和4年）7月15日

藤沢駅周辺地区整備担当

- 1 藤沢駅周辺の現状と課題
- 2 藤沢駅周辺地区再整備構想・基本計画
- 3 事業計画案
 - 藤沢駅北口駅前デッキリニューアル事業
 - 藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業
 - 藤沢駅南口駅前広場再整備基本計画（素案）
- 4 藤沢駅前街区まちづくりガイドライン（骨格）
- 5 藤沢市景観計画等

1 藤沢駅周辺の現状と課題

藤沢市の基礎情報

- ・昭和15年10月1日 市制施行
- ・面積： 69.57 km²
- ・人口： 438,076人 (2021年3月1日現在)
※2018年4月中旬に43万人を突破
- ・世帯数： 194,878世帯 (2021年3月1日現在)

【鉄道交通】鉄道路線の駅数 21

- | | | | |
|-----------|----|-----------|----|
| ・JR東海道本線 | 2駅 | ・小田急江ノ島線 | 9駅 |
| ・江ノ島電鉄線 | 6駅 | ・相鉄いずみ野線 | 1駅 |
| ・横浜市営地下鉄線 | 1駅 | ・湘南モノレール線 | 2駅 |

【名所・旧跡・観光】

- ・江の島 (展望灯台, サムエル・コッキング苑, 岩屋, 江島神社)
- 湘南海岸, 新江ノ島水族館, 遊行寺 (清浄光寺),
- 藤沢市アートスペース, ふじさわ宿交流館, 藤澤浮世絵館



1 藤沢駅周辺の現状と課題

- ・ 藤沢駅周辺は整備から概ね40年以上が経過し老朽化が深刻
- ・ 利用者も増加し、安全面や利便性に大きな課題
- ・ 駅周辺地区の商業ポテンシャルの低下傾向

南口



防災建築街区造成事業 (S43年)

北口



再開発事業と橋上駅舎化 (S54年)

地区のめざす姿

湘南地域の広域拠点であり続け、湘南のくらし・海・風・太陽・文化に人が集い・にぎわい・人が楽しみ・人がエネルギーとなり、未来へと繋げる
“次の時代の湘南・藤沢ライフを先導し、プロモーションする都心”をめざします。

地区整備の方向性

- ・藤沢の都心部機能集積の維持・充実
- ・湘南・藤沢らしさを持った**商業・サービス・交流の充実・創出**
- ・永年にわたり積み上げてきたストックを活かし、**街を面的に楽しむ仕掛けづくり**
- ・**にぎわい・交流の核**の形成
- ・**湘南・藤沢らしい空間・景観**の形成
- ・安心・快適と低炭素型交通環境の創出にむけた交通ネットワークの形成
- ・次の時代を先導する環境や安心・安全への取組

3 事業計画案（平成25年）



基盤整備を中心に 藤沢駅周辺の再整備



周辺の民間事業者へ
の波及・誘導により、
都心部再活性化へ



3 事業計画案（藤沢駅北口駅前デッキリニューアル事業）



特殊街路：都市の路地・ガーデン

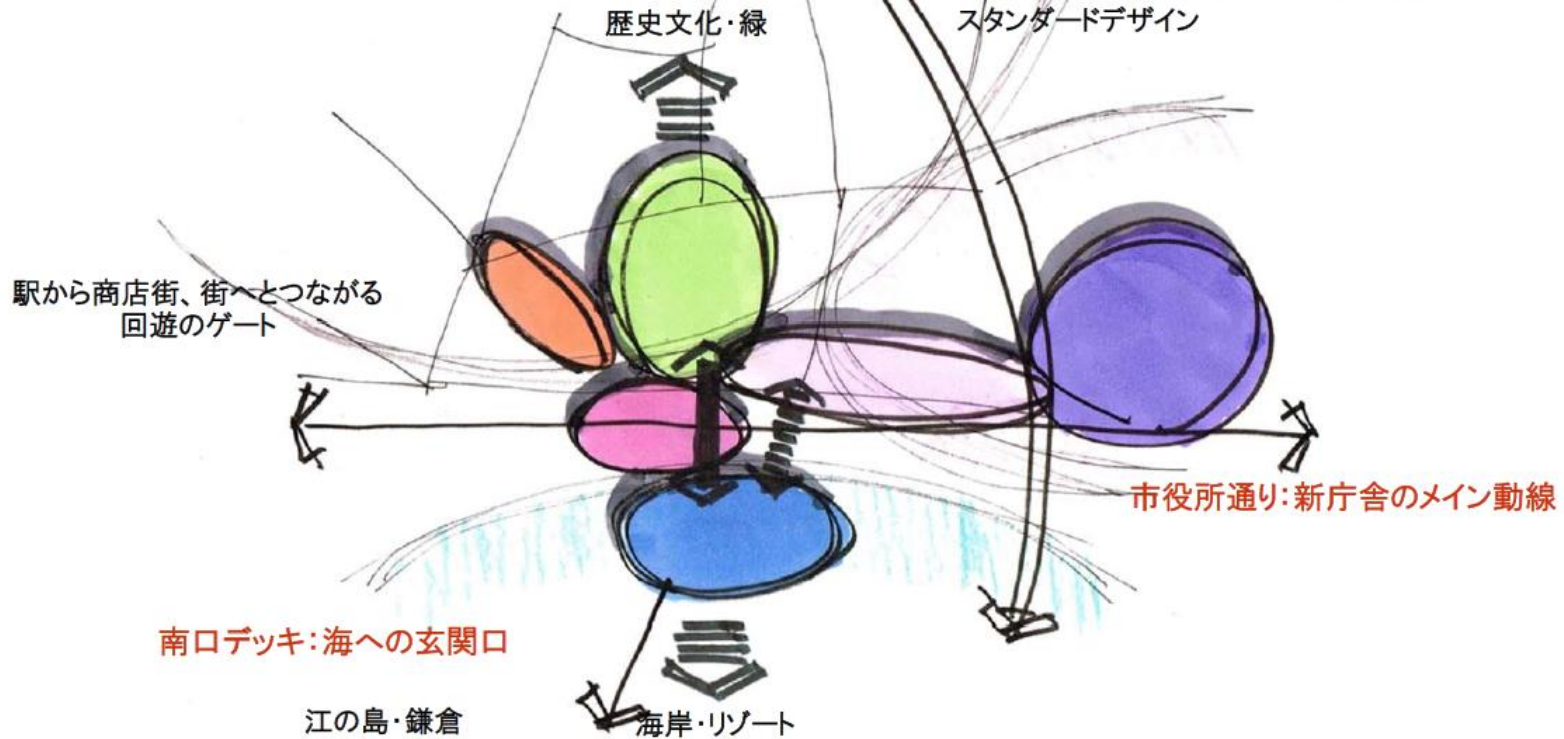
まちの回遊性を高める個性的な路地

- ・道路からひろば・緑のガーデンへの空間シフト
- ・ヒューマンスケールの路地空間、サードプレイス
- ・市民の活動・イベントに対応可能なオープンスペース
- ・市民主体のにぎわい創出に対応する仕掛けづくり

北口デッキ：暮らしを楽しむひろば・ガーデン

日常の暮らしに高揚感を感じられる回遊拠点

- ・緑のうるおい・季節感を感じられる屋上ガーデン
- ・祭り・イベントの風物詩：人々の活動・イベント発信空間
- ・歴史・文化、自然資源を背景とした明るくおおらかな空間形成
- ・駅前の多様な景観を受け止める時代に流されないスタンダードデザイン



3 事業計画案（藤沢駅北口駅前デッキリニューアル事業）



3 事業計画案（藤沢駅周辺地区エリアマネジメント）



- ① サンパール広場
（藤沢駅前広場・デッキ）
- ② サンパレット広場
（特殊街路）
- ③ 地下広場
（北口地下通路）

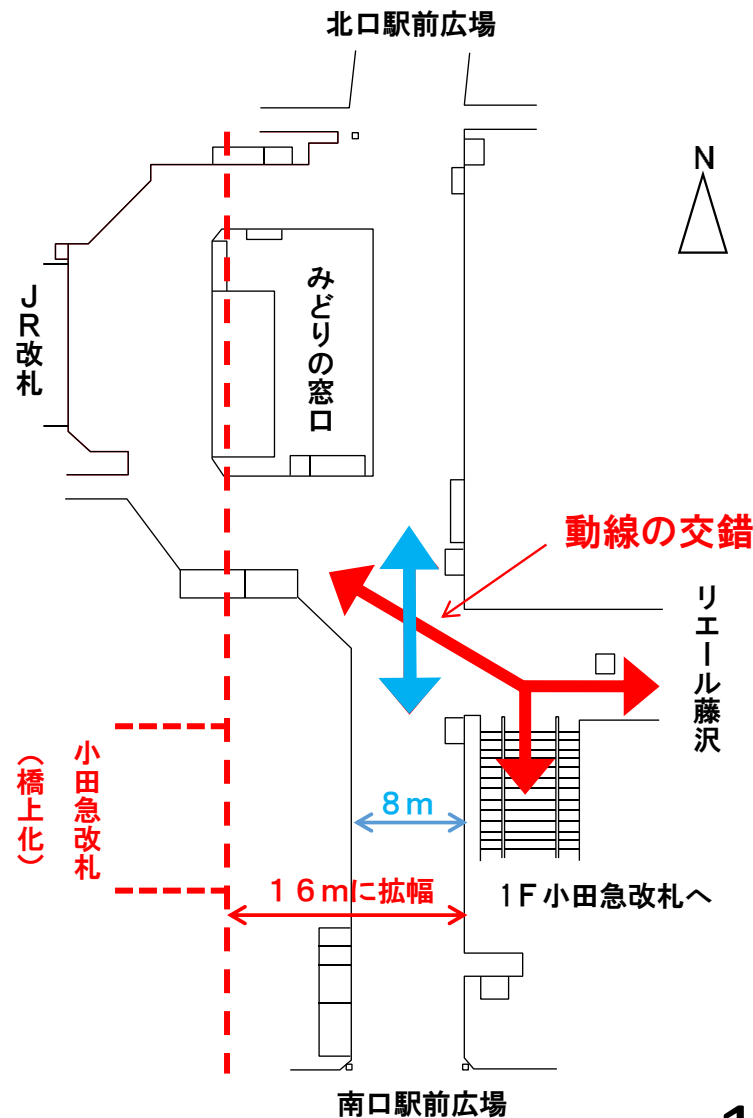


3 事業計画案（藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業）



拡幅整備のポイント

- 南北自由通路を現況の幅員を8mから16mに拡幅
- 南北自由通路の拡幅に合わせて小田急改札を橋上化
- 南北歩行者動線とJR・小田急間の乗換動線の交錯解消、南北連携強化
- 鉄道3線の乗換利便性の向上



3 事業計画案（藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業）



（JR東日本側 自由通路イメージ）

（小田急側 自由通路イメージ）



3 事業計画案（藤沢駅南口駅前広場再整備基本計画（素案））

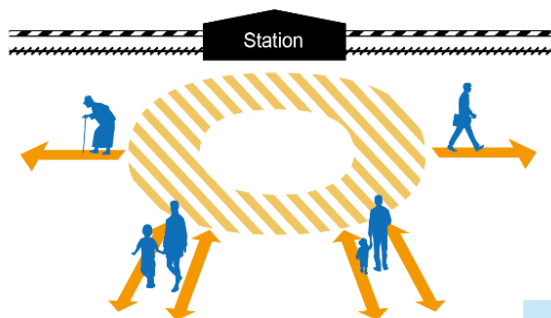


再整備のコンセプト

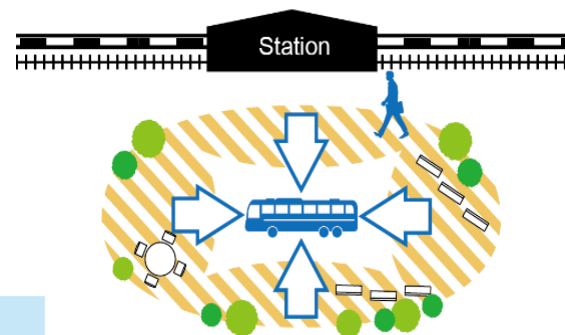
ゆたかな暮らしを未来につなぐ、にぎわいのある『湘南の玄関口』

再整備の方針

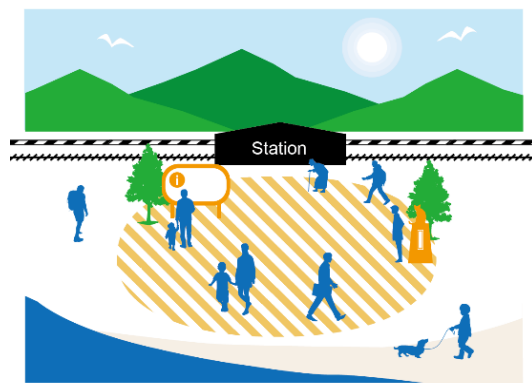
① 歩きやすい歩行空間の整備と
周辺のまちへのつながりの強化



② 歩道と車道のバランスを整え、
市民が居場所として過ごせる
広場づくり



③ 藤沢らしさ、特色が
感じられる
魅力的な空間づくり



3 事業計画案（藤沢駅南口駅前広場再整備基本計画（素案））



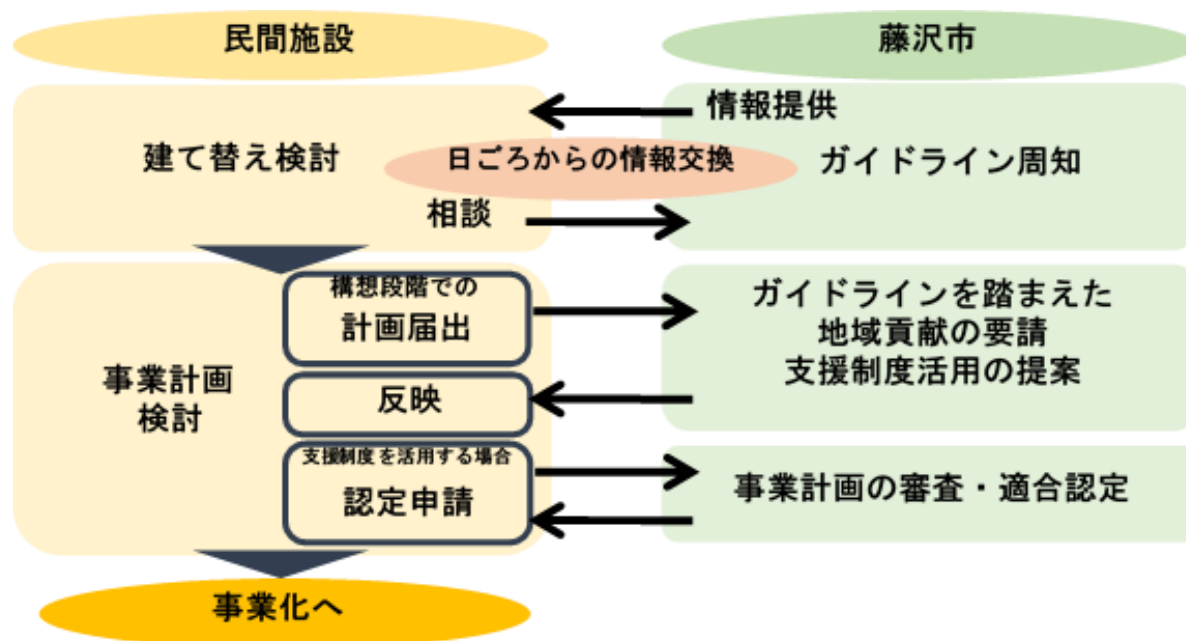
4 藤沢駅前街区まちづくりガイドライン（骨格）



まちづくりガイドラインの目的

- まちづくりの基本的なルールや適切な開発の誘導、官民連携によるまちづくりを推進していくために必要な事項等を位置付け、藤沢駅前街区における建て替え等の指針とする。

届出認定制度



規制誘導の考え方（地域貢献イメージ）

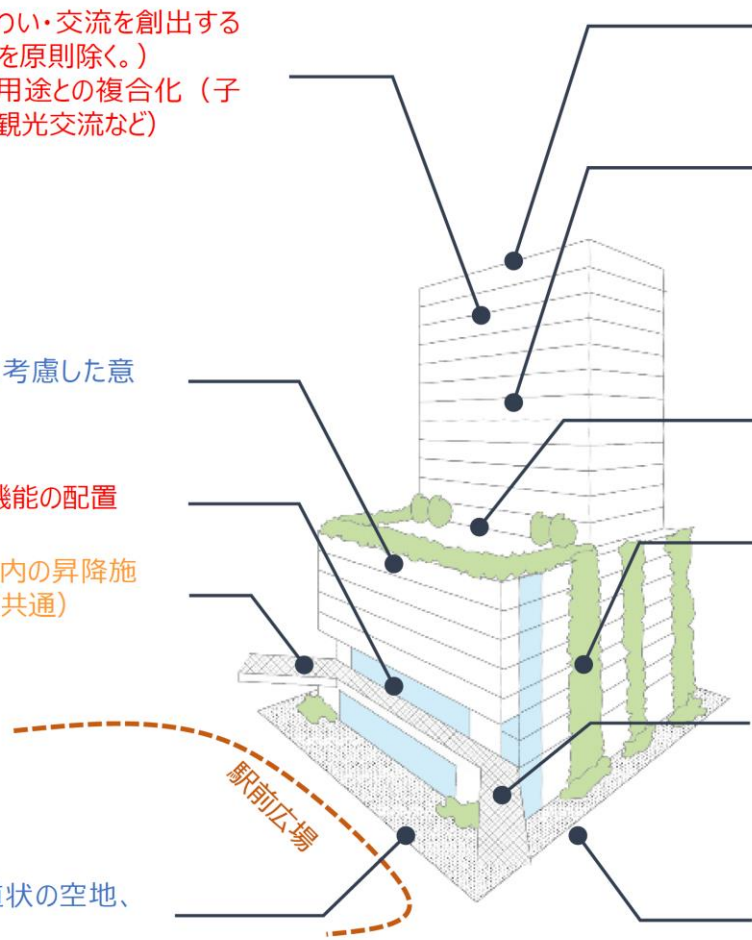
- 商業機能を基本ににぎわい・交流を創出する機能の導入（住宅用途を原則除く。）
- 都心の利便性を高める用途との複合化（子育て支援、健康・福祉、観光交流など）

- 地域資源との関係性に考慮した意匠面の工夫

- 駅前広場に面した商業機能の配置

- デッキとの接続及び建物内の昇降施設の一般利用（南北口共通）

- 壁面後退等による歩道状の空地、広場空間の確保



- 高さを抑える（80m以下、さらに提案事項として50m以下）

- 現状のまちなみを考慮した工夫（圧迫感軽減に向けた高層部の壁面後退など）

- 屋上庭園の設置と一般開放

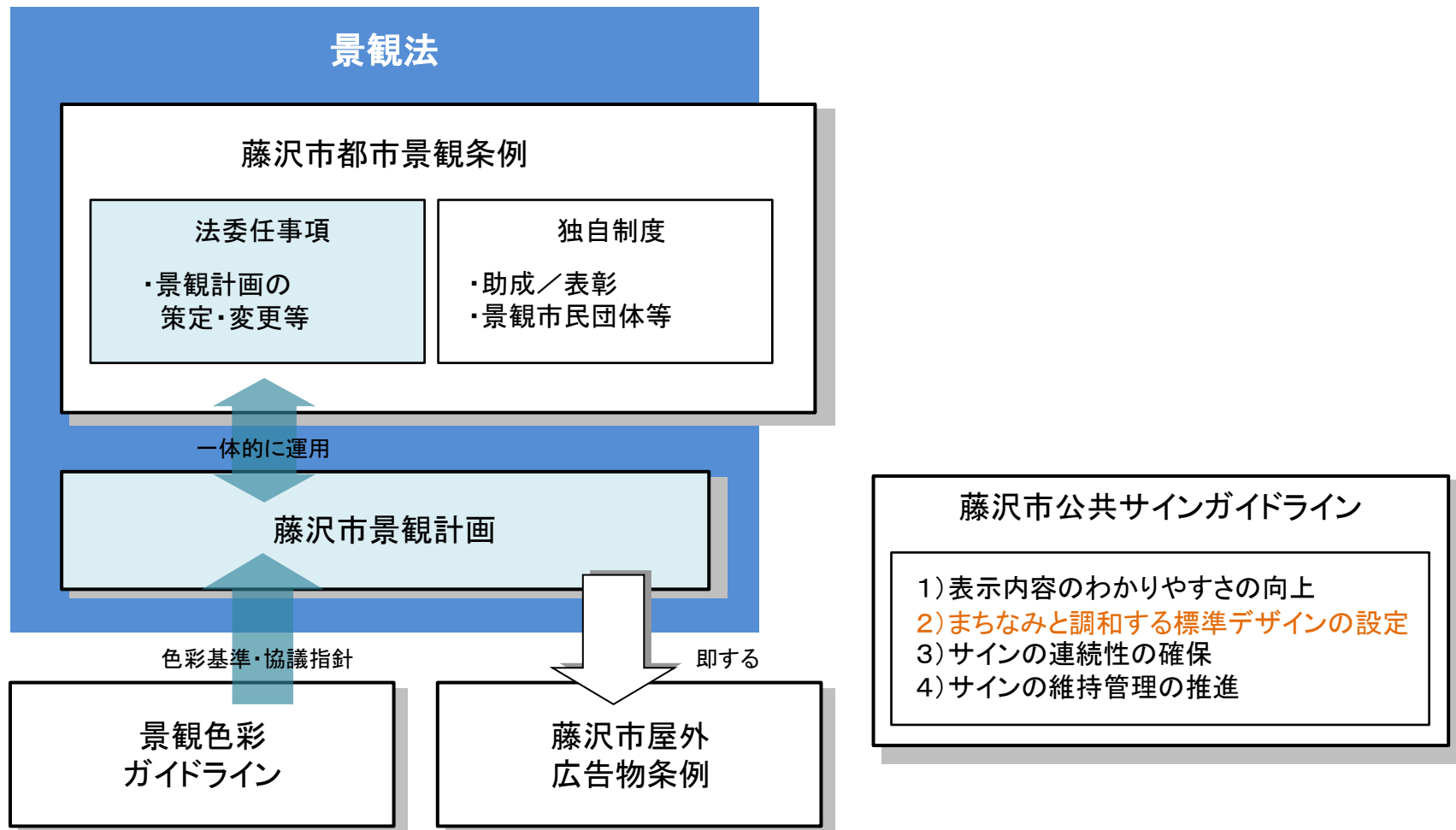
- 「藤沢市緑の保全及び緑化の推進に関する条例」で定める緑化基準以上の緑化

- 南口での外周デッキ機能の導入空間の創出

- 敷地分割をしない
- 共同化や大街区化

藤沢駅南口391地区市街地再開発事業（令和7年着工予定）





5 藤沢市景観計画等

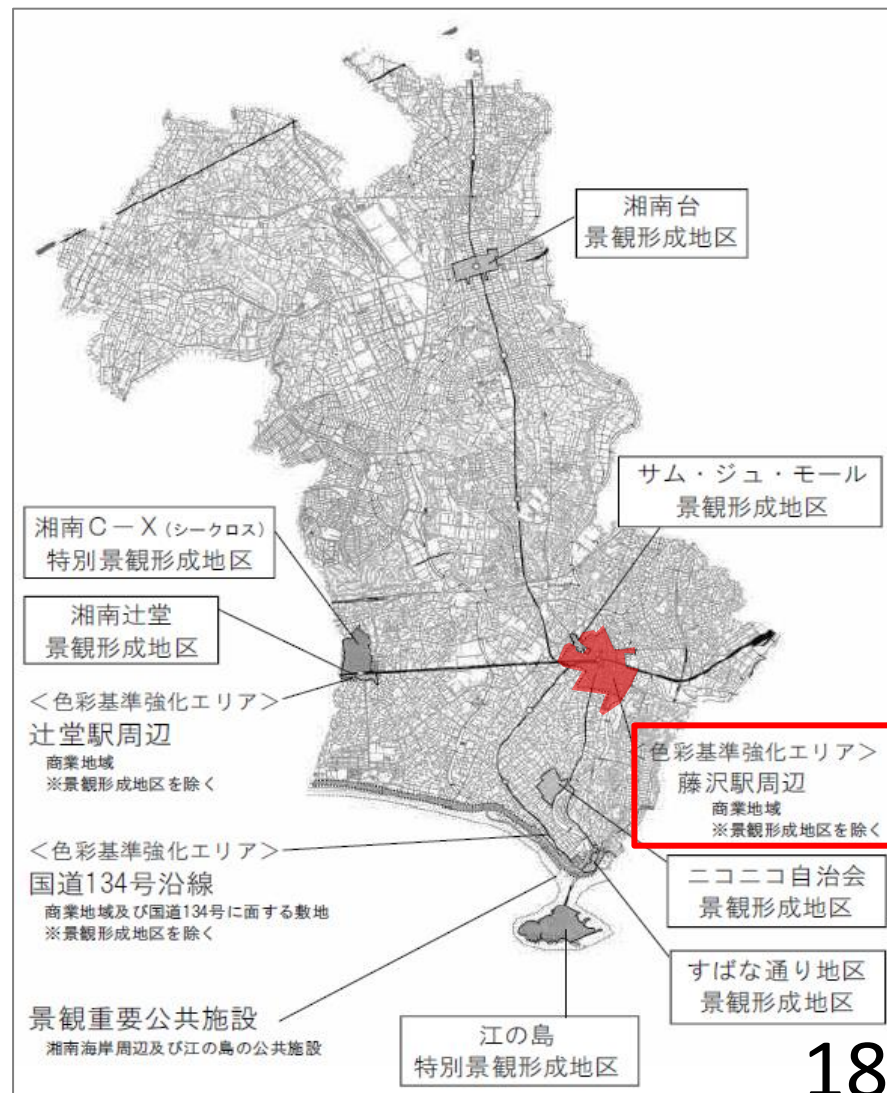


藤沢市景観計画（平成19年1月策定、平成25年5月改定）

- 市域全域を「景観計画区域」とする。
- 5つのベルトと5つのゾーン
まちの拠点となる駅前など市街地
景観の骨格、緑や水のつながりによる自然景観の骨格として位置づけ

- ①湘南海岸・なぎさベルト
- ②引地川・ふるさとベルト
- ③北部・しょうなんの丘ベルト
- ④六会～大庭・緑の中央ベルト
- ⑤境川・うるおいベルト
- ①シンボルとしての江の島ゾーン
- ②都心としての藤沢駅周辺ゾーン
- ③北の森としての遠藤・御所見ゾーン
- ④西の拠点としての辻堂駅周辺ゾーン
- ⑤北の拠点としての湘南台周辺ゾーン

- 特に藤沢駅等は**大規模建築物等の色彩基準の強化エリア**に定める。



5 藤沢市景観計画等



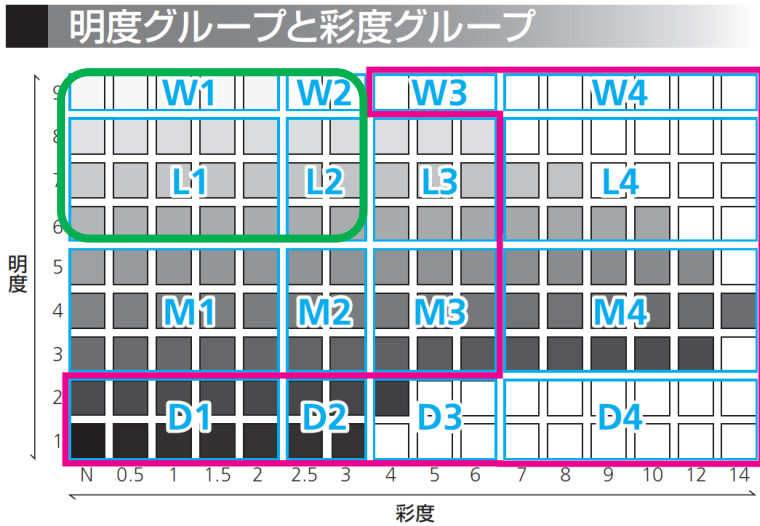
「藤沢市色彩景観ガイドライン」

外壁の色彩の基準（藤沢駅周辺の商業地域等）



誘導を図っていく色彩

避けるべき色彩



5 藤沢市景観計画等

藤沢市公共サインガイドライン（平成30年～）

- 1) 表示内容のわかりやすさの向上
- 2) まちなみと調和する標準デザインの設定
- 3) サインの連続性の確保
- 4) サインの維持管理の推進

（参考）令和4年3月にリニューアルした地下通路のサイン



スケジュール（案）

R 4. 7. 1 5 ・第1回デザイン会議の開催

- ※ 藤沢駅周辺整備の取組紹介、自由通路の基本設計の説明（既存の自由通路躯体を利用するため、荷重が大幅に増加する資材を使用しないことの説明）、藤沢らしさの共有等
- ※ デザインコンセプト、自由通路デザインの検討手法

R 4. 1 0. 2 7 ・第2回デザイン会議の開催

- ※ 藤沢らしさから導き出される藤沢駅前街区のデザインコンセプト（たたき台）提示
- ※ 自由通路デザインイメージの方向性

R 4. 1 1－R 5. 1頃 ※市民参画に向けた取組

R 5. 1 ・第3回デザイン会議の開催

- ※ デザインコンセプト（素案）の提示
- ※ 自由通路デザインイメージ（たたき台）の提示

R 5. 2 ・議会特別委員会、景観審議会デザインコンセプト（素案）提示

R 5. 4 ・第4回デザイン会議の開催

- ※ デザインコンセプト（案）、自由通路の詳細設計成果の提示

R 5. 5 ・デザインコンセプトのパブリックコメントの実施

R 5. 7 ・第5回デザイン会議の開催

- ※ デザインコンセプトの確定、自由通路のデザイン（素案）の提示（3パターン程度）

R 5. 1 0 ・第6回デザイン会議の開催

- ※ 自由通路のデザイン（案）の提示

R 5. 1 2 ・議会特別委員会、景観審議会自由通路デザイン（案）提示

R 6. 2 ・第7回デザイン会議の開催

- ※ 自由通路のデザイン（案）の修正提示→確定

(参考資料集)

- ・デザインコンセプト（市参考案）
- ・小田急側 南北自由通路拡幅整備事業 基本設計（コンセプト・パース）
- ・木材を利用した自由通路のイメージパース（令和3年度作成）
- ・自由通路のデザイン事例
- ・住民参加の手法事例

『藤沢駅前街区デザインコンセプト』

「湘南を感じ、 ただいまと言いたくなる場所」

『藤沢らしさ』

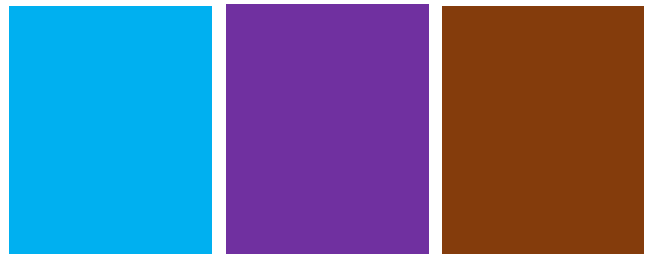
- ・ 温暖な気候、海や波、海岸 「湘南」
- ・ ゆったりとした開放感を感じる 空・風・緑 自然環境
- ・ 宿場町としての歴史・文化
- ・ 都市機能の充実（田舎の都会）
- ・ 湘南の「玄関口」、ベッドタウンとしての藤沢

「空間コンセプト」

- ・ 暖かみ、懐かしさが感じられる「木」の積極的な活用。
（神奈川県産）
- ・ 歩行空間だけではない、滞在空間（にぎわい創出・情報発信）の充実。

「カラーコンセプト」

- ・ 藤沢らしさを体現する色
「青（水色）」・・・海、波、空
「藤」・・・藤の花
「濃茶」・・・歴史、郷土
- ・ 居心地の良さを感じるため、高彩度・高明度を避ける。



「サインコンセプト」

- ・ 北口・自由通路・南口の連続性を意識したサイン計画
- ・ ユニバーサルデザインに配慮した誰もが分かりやすい色彩、形状

小田急側 南北自由通路拡幅整備事業 基本設計（コンセプト・パース）

湘南の光と風を感じる駅

藤沢駅新駅舎は、湘南の光と風をパッシブに取り入れ、湘南への玄関口として風格を備えた駅をコンセプトとしています。

光

自然光を存分に取り入れた開放感のある空間が、湘南の玄関口としてお客様を迎え入れ、訪れた方々が魅力を感じる駅舎を目指します。

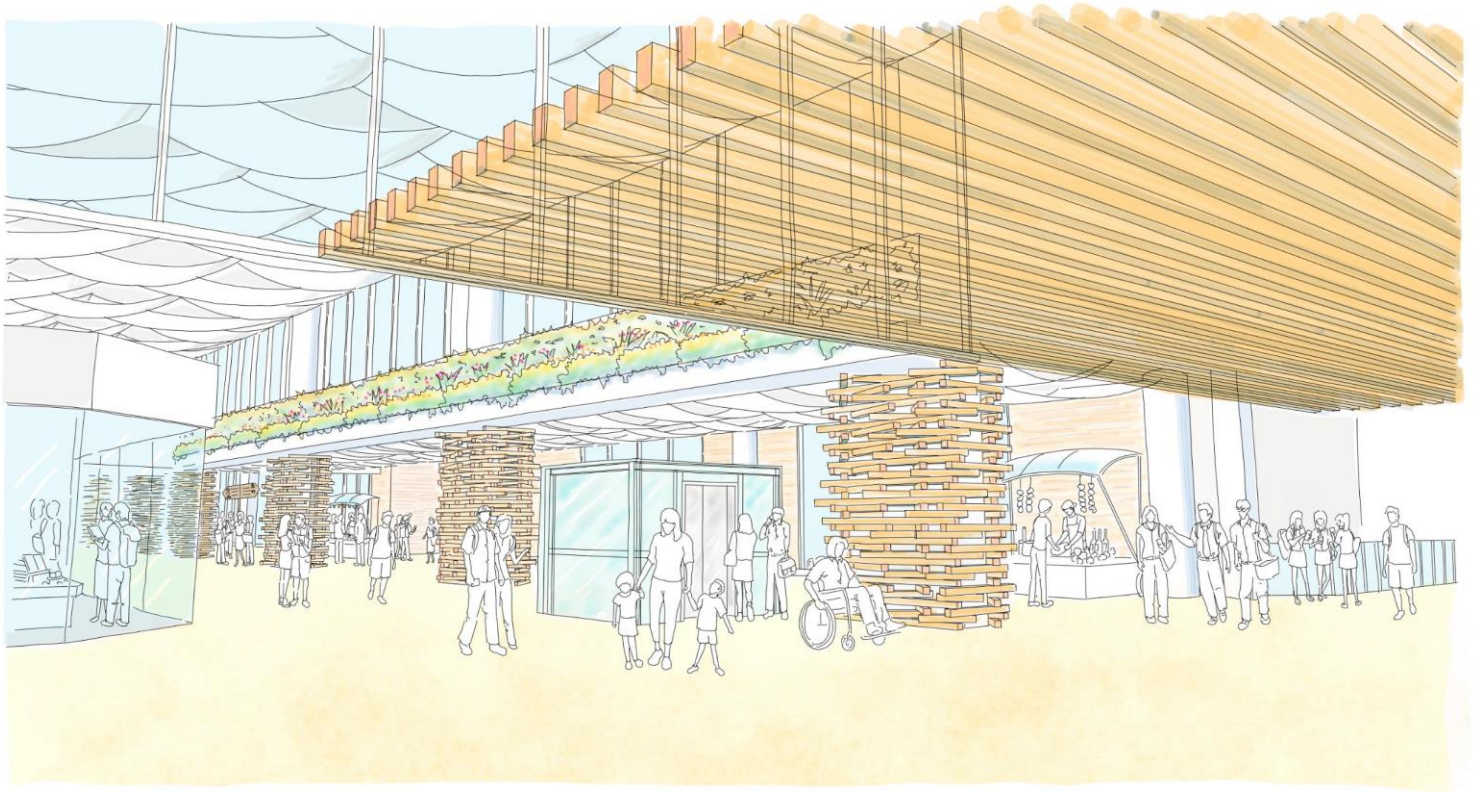
風

自然換気を最大限に利用し、環境配慮を行いながら、お客様の快適性の向上を目指した駅舎を目指します。

湘南の入口を思わせる、軽やかな清涼感のある恒久的なデザインで、お客様の安全性はもちろんのこと、防災面、維持管理の容易性、長寿命化・耐久性への配慮を行い、誰にでもわかりやすい動線を重視した快適な空間を提供することにより、藤沢市の「回遊性と広がりをもった街づくり」に貢献します。



木材を利用した自由通路のイメージパース（令和3年度作成）



自由通路のデザイン事例

| 駅名 | 藤沢駅 (1979年) | 辻堂駅 (2010年) | 茅ヶ崎駅 (2015年) | 小田原駅 (2003年) | 海老名駅 (2015年) |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 乗降者数 | 約40万人 | 約12万人 | 約11万人 | 約19万人 | 約18万人 |
| 幅員/長さ | 幅員8m (16m) / 延長80m | 幅員12m / - | - / - | 幅員16m / 延長172m | 幅員12m / 延長195m(※西口側) |
| 特徴 | ピーク時の通行利用者数に対して幅員が狭小。JRと小田急間の乗換と南北方向の通行利用者の動線が交錯することが課題。 | デッキの昇降装置は階段の他、EVや自転車通行用の斜路を付帯。行政情報等をデジタルサイネージにより発信。 | 自由通路は拡幅し流動性を高めるとともに、膜屋根による開放的な空間を整備。南階段では小学生の壁面デザインWSを開催。 | アークロード(自由通路)に大提灯を設置。太陽光発電システムを導入。3人掛けベンチや観光案内所の設置。 | 歩く歩道やミストシャワーを設置。蓄電池付太陽光発電システム、LED照明、デジタルサイネージの採用。 |
| 写真 |  |  |  |  |  |
| 引用先 | 市職員撮影 | mapio.net | JR東日本建築設計HP | 神奈川新聞HP | 小田急交通広告HP |

| 駅名 | 新宿駅 (2020年※開通年) | 品川駅 (2003年) | 川崎駅 (2018年) | 日立駅 (2011年) | 羽鳥駅 (2020年) |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 乗降者数 | 約350万人 | 約100万人 | 約43万人 | 約2.2万人 | 約0.5万人 |
| 幅員/延長 | 幅員25m / 延長100m | 幅員20m / 延長200m | 幅員10m / 延長230m | 幅員8m / 延長139m | 幅員5m / 延長45m |
| 特徴 | 改札を移設し、名称を変更。大型LEDビジョン(新宿ウォール456)による広告と環境演出を融合。 | 柱上部に設置された70インチデジタルサイネージ44面による情報発信。アーチ状の天井と明かり窓を配置。 | 橋上駅舎化し、改札内コンコースと大規模なエキナカ商業施設を新設。行政サービス施設の導入。 | 東西の市街地の連続性やユニバーサルデザインへの改良など、戦略的なシビックデザインプロジェクトを実施。 | 筑波技術大学と市民の協働ワークショップによってモザイクタイルアートを制作。通路はバリアフリーを整備。 |
| 写真 |  |  |  |  |  |
| 引用先 | 新宿区HP | 品川区HP | 鉄建建設(株)HP | 日立市HP | TOWN JOURNAL OMITAMA HP |

| 駅名 | 秋田駅 (2017年) | 新山口駅 (2015年) | 青森駅 (2021年) | 高山駅 (2018年) | 西鉄柳川駅 (2015年) |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 乗降者数 | 約2.1万人 | 約1.6万人 | 約1.1万人 | 約0.3万人 | 約1.1万人 |
| 幅員/長さ | 幅員12m / 延長186m | 幅員10m / 延長160m | 幅員6m / 延長170m | 幅員6m / 延長120m | 幅員4m / 延長120m |
| 特徴 | 行政・大学・地元企業の連携による、駅・自由通路・待合ラウンジ等の統一デザイン検討。県産材を活用した木質空間を整備。 | 光や風、植物の匂いも体感できる空間、壁には140種の山口の植生植物を配置。床は自然石等を用いた素朴な質感。 | 木の温もりと親しみを感じる回廊。リンゴの木箱を模した木目調のデザイン。壁面凹部をギャラリーとして活用。 | 内装には飛騨産のヒノキを多用。壁面は祭屋台をテーマとして祭屋台の下段部分や車輪、装飾品等を展示。 | 市民が誇りと愛着をもてる居場所を整備。柳川を連想させる和のデザイン、八女杉の活用。広告・空間演出による情報発信。 |
| 写真 |  |  |  |  |  |
| 引用先 | CHORD ARCHITECTS HP | (公財)都市緑化機構HP | 鉄道建設(株)HP | 土木学会デザイン賞HP | 九州産業大学HP |

住民参加の手法事例

ワークショップ

例：青森駅自由通路に関する市民ワークショップ（青森市HP）

（実施目的）

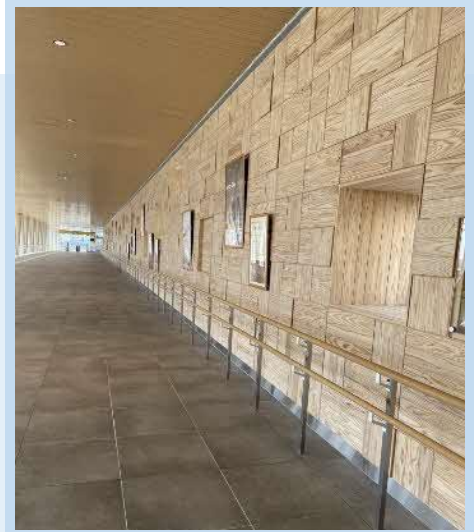
- ・自由通路の設計に、市民のみなさんの意見を反映させることで、完成した自由通路に愛着を持って活用してもらう。

（実施概要）

- ・2時間半のワークショップを3回開催。
- ・参加者各回30名程度。
- ・弘前大学の教授にコーディネータを依頼。
- ・第3回のワークショップでは、デザイン案を3案提示し、賛成・反対・改良ポイントについてディスカッション。

（検討テーマ）

- 《第1回》 自由通路などへの意見やアイデア
- 《第2回》 まちづくり、まち育てへの市民参画について
- 《第3回》 自由通路のデザインについて



コンセプト投票

例：J R羽鳥駅自由通路北側壁面デザインコンセプト投票

（実施目的）

- ・自由通路北側壁面のデザインについて、デザインコンセプトの投票を行い、デザイン決定の参考とする。

（実施概要）

- ・「自然豊かな花香る小美玉」、「空と緑の境界小美玉」、「おいしい恵みあふれる小美玉」など、デザインコンセプト案7案を示し、人気投票を行う。
- ・投票の結果、「自然豊かな花香る小美玉」が最も多く、このコンセプトを基にデザイン検討を行う。



デザイン投票

例：J R津田山駅色彩デザイン投票（川崎市HP）

（実施目的）

- ・橋上駅舎化によって新たに整備される自由通路及び新駅の色デザインについて、駅前の景観に配慮した親しみやすいものとなるよう、人気投票を行う。

（実施概要）

- ・デザイン3案を示したポスターと投票用紙・投票箱を駅構内等に配し、駅利用者等に投票してもらう。

愛称募集

例：J R高山駅東西自由通路愛称募集（高山市HP）

（実施目的）

- ・自由通路の愛称を町民等につけてもらうことで、より親しみを持って利用してもらう。

（実施概要）

- ・市内外から270点余りの愛称応募。
- ・地元町内会、商店街代表、高山駅長等による審査委員会にて選考し、市長が決定。

（実施結果）

- ・自由通路の愛称は「匠通り（たくみどおり）」に決定。
- ・選定理由は、自由通路の両壁面に数々の「匠の技」が展開されることから、高山の伝統文化薫る場所の象徴としてふさわしい。

